

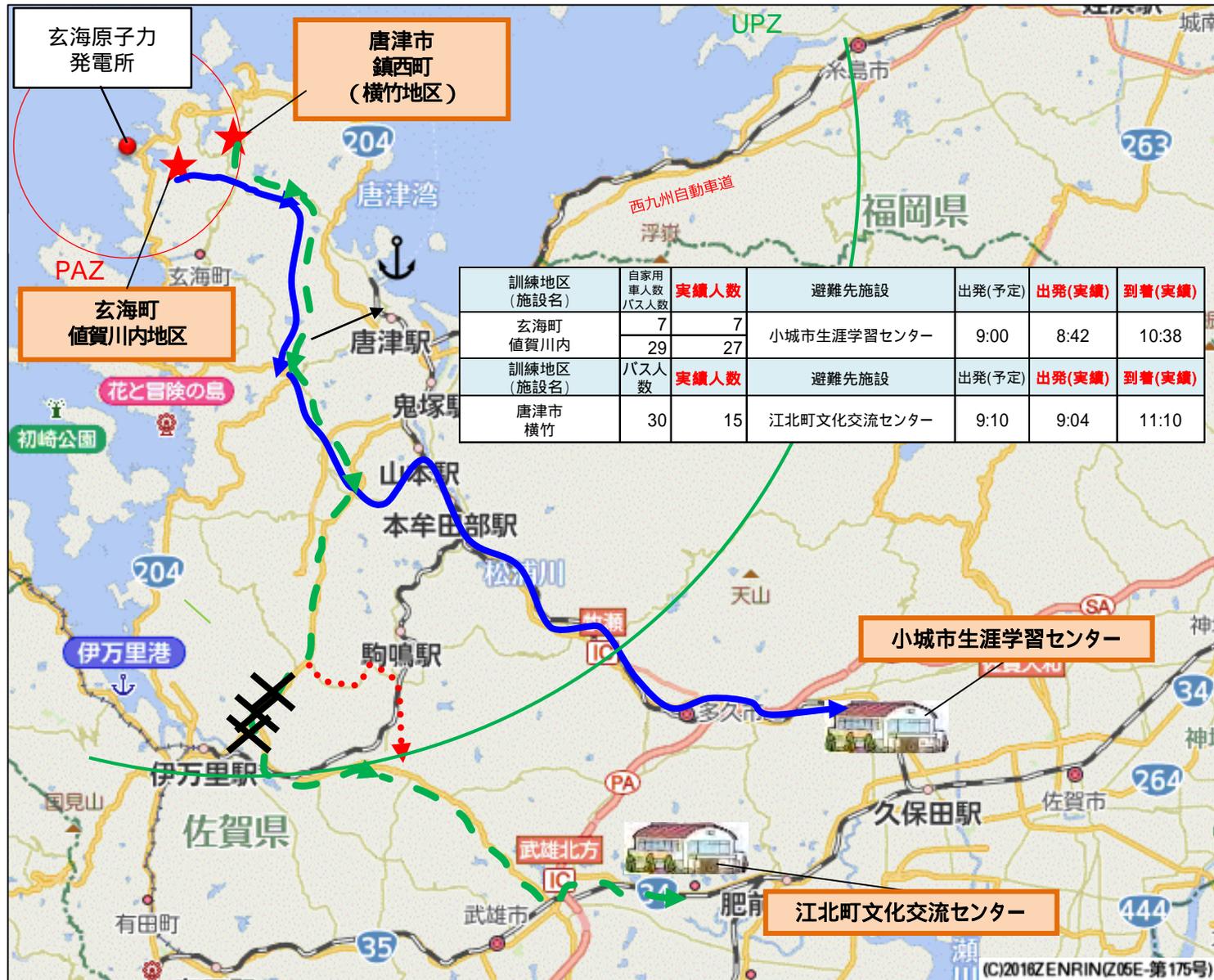




# PAZ内(玄海町)要避難者の避難実施結果(保育所)



# PAZ内住民の避難実施結果(佐賀県)



# PAZ内住民の避難実施結果(長崎県)

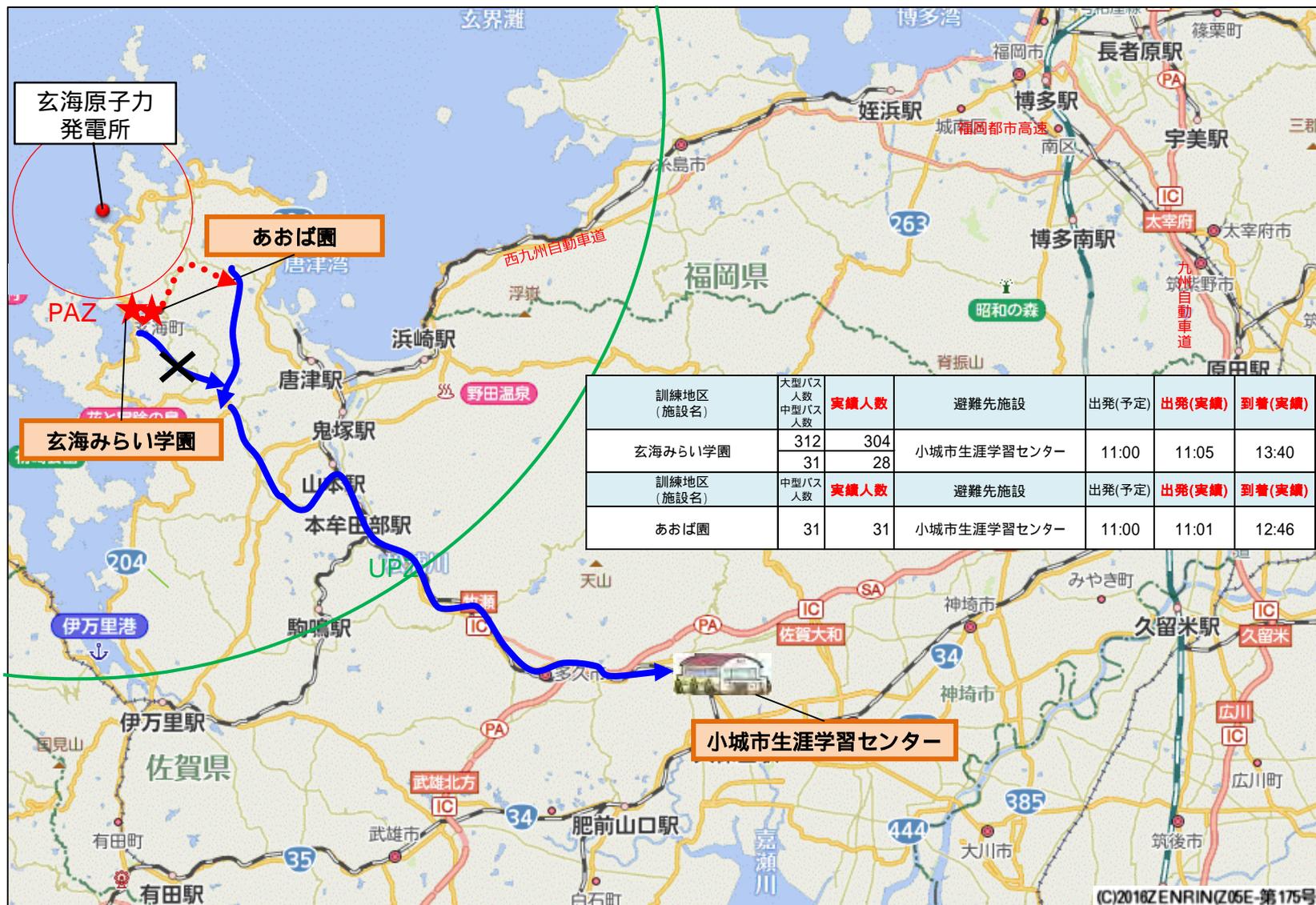


# UPZ内住民一時移転等の実施結果(佐賀県)



訓練地区 (施設名)	実績人数		避難先施設	出発(予定)	出発(実績)	到着(実績)
	自家用 車人数	バス人数				
新田	3	3	小城市生涯学習センター	12:30	12:31	14:49
	24	23				

# 学校福祉施設等一時移転等の実施結果(玄海町)



# UPZ内住民一時移転等の実施結果(糸島市)

訓練地区 (施設名)	バス 人数	実績人数	避難先施設	出発(予定)	出発(実績)	到着(実績)
福井営農研修施設	40	20	筑紫野市勤労青少年ホーム	13:10	12:57	14:02
浜窪公民館	36	37	筑紫野市勤労青少年ホーム	13:10	13:09	14:50
新町公民館	40	17	そびあしんぐう	13:40	13:29	15:00
訓練地区 (施設名)	自家 用車	実績人数	避難先施設	出発(予定)	出発(実績)	到着(実績)
新町公民館	4	6	そびあしんぐう	13:15	13:29	14:37



新町公民館

浜窪公民館

福井営農研修施設

そびあしんぐう

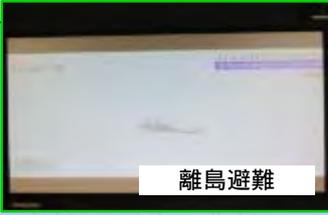


筑紫野市  
勤労青少年ホーム

# ヘリコプター及び船舶による映像伝送



玄海原子力  
発電所





原子力施設事態即応センター



原子力事業者災害対策支援拠点



玄海原子力発電所緊急時対策所



移動式大容量ポンプ車の準備



資機材の積み降ろし



緊急時モニタリング



ヘリコプターによる空輸



被ばく患者の搬送



## D-NETの概要 (1/2)

### n 背景と目的

- 地震等の大規模災害時に、従来は、救援航空機と地上の運航拠点の間では航空無線による音声通信、運航拠点と災害対策本部の間では電話やFAXで情報伝達され、ホワイトボード等で共有化されている。
- これらをデータ通信化することにより、大規模災害時にもより**効率的な情報伝達・共有化**を可能にし、それらのデータを有効活用した**運航管理**により、航空機による救援活動をより**効率的**に行うための**技術、規格、システムを開発**する。



D-NETの概念図



## D-NETの概要 (2/2)

### n 機能概要

○ D-NETは航空機と災害対策本部の情報通信をデータ化するシステムであったが、対策本部に集約される以下のような情報も統合化するニーズが高まったため、これに対応する事業計画(航空部門の研究開発事業)としてFY2015～2019で実施。民間企業への技術移転による実用化が目標。

ü 地上からの通報

ü 他の災害情報システム(厚労省の広域災害救急医療情報システムEMIS、内閣府戦略的イノベーション創造プログラムで開発される府省庁連携防災情報共有システムSIP4D等)

ü 他の航空宇宙機器(衛星、無人機)で観測された災害情報



# 防災訓練におけるD-NETの運用状況

資料56-3

## D-NETによる情報共有(車両15、船舶3、航空機2)

写真は別訓練時のもの

D-NET  
持込型システム  
(車両用)



車両

航空機

福岡県警察航空隊  
(長崎県防災航空隊は  
既存システムを活用)

船舶

D-NET持込型システム  
(航空機・船舶用)



県名	市町村名	数
佐賀県	第7管区 海上本部	1
	唐津市	1
長崎県	平戸市	1
合計		3

県名	市町村名	数
佐賀県	玄海町	3
	唐津市	2
	伊万里市	2
長崎県	松浦市	1
	佐世保市	3
	壱岐市	1
福岡県	糸島市	3
合計		15

モバイル  
プリンター

ノートPC

インタラクティブ  
プロジェクター



D-NET IP

インタラクティブ・プロジェクタを  
活用した災害情報、被害情報の入力



## 情報共有例(9月3日)



- 佐賀県庁、佐賀オフサイトセンターで入力された情報
  - PAZ、UPZ範囲情報
  - 災害情報(道路損壊、家屋倒壊等)
  - 避難予定経路情報
- 避難車両等の動態情報と共に各拠点で同一の情報を共有できることを確認した。